

150MHz 帯アナログ簡易無線局用周波数におけるデジタル方式との
周波数共用に関する調査検討会 第一回会合用資料

●150MHz 帯における課題

先般公表された、周波数再編アクションプラン（平成 22 年 2 月改定版）において、150MHz 帯における周波数有効利用の方針が以下のように示されている。

「現行のアナログ無線システムについては、周波数の有効利用の観点から、デジタル化を促進する。

○ アナログ防災行政無線（60MHz 帯及び 150MHz 帯）及び消防無線（150MHz 帯）についてデジタル方式（60MHz 帯（同報系に限る）及び 260MHz 帯）への移行を推進するほか、小規模な通信需要を満足するための簡素なデジタル方式の導入を検討。

○ 簡易無線（150MHz 帯）については、デジタル方式の導入を検討。」

このように、150MHz 帯の無線システムにおいては未だアナログ方式が主流となっており、400MHz 帯や 800MHz 帯などでデジタル化が進んでいることに比較し、デジタル化が遅れているという状況にある。

また、同アクションプランでは、簡易無線について、「150MHz 帯においては、アナログ方式の山間部における根強い需要を考慮し、デジタル方式の導入を検討する。」とされており、150MHz 帯の電波の通達距離の長さを利用した運用がされていることを、デジタル方式導入において考慮することが必要である。

●本調査検討会に期待すること

すでにデジタル化された、400MHz 帯簡易無線においては、昨年度の調査検討会の実験で、データ通信機能を利用した遠隔操作や車両位置情報管理などのシステムが実現できることが実証されている。

しかしながら、400MHz 帯簡易無線では現状、中継通信回線およびデータ通信回線の専用チャンネルが設けられておらず、山間僻地などでの長距離通信およびデータ通信の安定的な確保が困難な状況にある。

したがって、150MHz 帯簡易無線のデジタル化においては、中継専用チャンネルおよびデータ通信専用チャンネルが、割り当て当初から設けられることが望ましいと考える。

本調査検討会においては、これら専用チャンネルの設定を前提に、実験内容を十分吟味して、周波数割り当てへの提言へ結び付けていくことが望まれる。

以上